

子ども・若者の「生きること」に伴走する地域活動

こどもソーシャルワークセンター 理事長 幸重忠孝

こどもソーシャルワークセンターのこども若者の居場所活動

- 夕刻を支えるトワイライトステイなど生活支援や体験がベースの居場所活動
- 「こどもたちとつくる貧困とひとりぼっちのないまち」にこだわって十年

十年活動して目の前で起こっている現実

- 「貧困を抱えるこども」たちは見事に「貧困を抱える若者（大人）」に成長
 - ・ 役員として関わり続けてきたこどもの貧困対策センター「あすのば 10 周年記念イベント」で感じた自団体の若者たちとの乖離
 - ・ どこに向かって行くのか「無料学習支援」や「こども食堂」などのわかりやすい地域の居場所たち

実は十年前から違和感を感じ続けている言葉

「こどもの貧困をなくそう」

→ しまった！今日は「なくそう！子どもの貧困ネットワーク」のイベントや（苦笑）

「自団体（活動）の最終ゴールは解散すること」

→ 貧困課題って自立出来て終了？ 何かあった時に帰ってくる場でなくていいの？

改めてこどもの貧困支援は幅広い概念

こどもの貧困課題を「ことばや数字、政策制度」で向き合っている支援者（川上で頑張る人）と「リアルや人」で向き合っている支援者（川下で頑張る人）の見える世界の違いをどう乗り越えていけばいいのか

地域（草の根）でやってきたことは意味がなかったのか

- ・ 十年前は数十万円の公的補助金や必死で獲得した助成金で行っていた居場所活動に一千万円近くの公的補助金がつくように社会が大きく変わった
- ・ 「貧困世帯のこどもはうちの学校（地域）にいません」などの言葉を聞くことはなくなった
- ・ 十年活動を続けてその多くは「貧困を抱える若者」になったが、何とか「自分の命」を守ってくれている「犯罪など他人の人権侵害」をしない若者たちでいてくれる。困った時は頼る力がついてきている。そこがうちの支援の限界値。

そして最後はいつものあれです！！
（無料の活動にこだわるとこれしかない） →

